

# ちかほ

2012

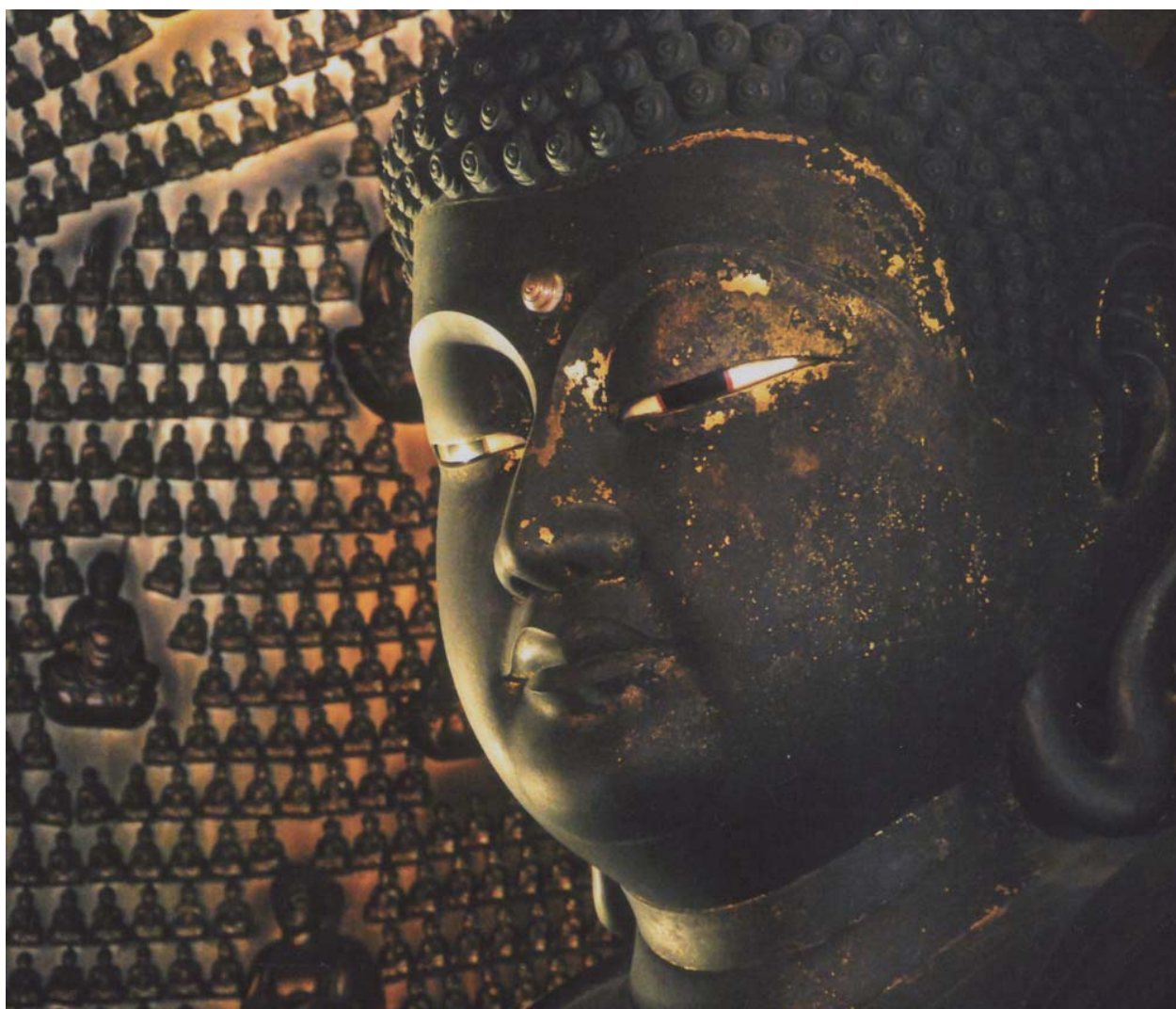
正月号

VOL. 133

浄土宗西山深草派宗務所

総本山 誓願寺

謹賀新年



◆ 総本山誓願寺 本尊阿弥陀如来像（写真 鳥山應然）◆

## ◆ 目次 ◆

●新春を迎えて

●慈光〈第19回〉

●お釈迦さまのご生涯 6

●賢問子行状記③

●インド **ド****タ****バ****タ** 夫婦道中記 ②7

●総本山誓願寺だより

●何でも“お寺探偵団” Vol.31

北星山 宝幢院 西福寺



# 新春を迎えて

浄土宗西山深草派管長  
総本山誓願寺 法主

井ノ口 泰淳



皆様方には御氣嫌宜しく御迎春の事とお喜び申し上げます。私も老齢ながら唯今の処、日々の法務に励んで居り、有難いことと感謝の日々を過して居ります。

昨平成二十三年は元祖法然上人法爾大師の八百回大遠忌に正当致し五十年に一度の大法要諸行事が盛大に勤まりました。私も大法要導師として親修し、無事円成することが出来ました。五十年に一度の法縁に逢い得て感謝感激の想いあるのみであります。

元祖法然上人の御遺徳は、唯法要をつとめることによつてのみ鑽仰されるものではありません。上人の御教えを心にとどめ日夜その御教えを実践することこそ上人の御徳を鑽仰する所以であります。殊に御入寂の直前に御弟子達にお示しになりました『一枚起請文』の末尾の「ただ一向に念佛すべし」の御言葉こそ、上人の御教えの心髄であると理解しております。善きに

つけ悪しきにつけ、喜びにつけ悲しみにつけ、唯ひたすらにお念佛をすることこそが上人の御教えの心髄であります。

大遠忌法要を勤めることは勿論大切なことではありますが、その法要は正しくお念佛の縁であります。

大遠忌法要は五十年に一度の御縁であります。御念佛を申すことは日夜絶えることなく続けなくてはなりません。

大遠忌大法要を営むに当たり、私の心に深く銘ずるところであり、また皆様方におかれても「ただ一向に念佛すべし」の御言葉を心して実践していただきたいと年頭に当たり心より念願致して居ります。

平成二十四年 元旦

総本山誓願寺 法主

彰空泰淳 識

※井ノ口法主御染筆の色紙を抽選で1名の方に差し上げます。詳しくは7ページをご覧ください。



『慈光』。万物を育成し世に恵みを与える光。大慈悲の光明。阿弥陀さまの分け隔てのない暖かい優しい光。私たちはこの光を頂き、生かさせていただいております。慈光に照らされた私たちの生活を今一度考えてはどうでしょうか？タイトルの『慈光』は、鈴木晴道先生のお寺本宿町「慈光院」より拝しました。

## 【佛さまの御花とは】

佛の教えでは供養の品を

五種供養とお示し下されてあり、水・花・灯・香・供物の五品であります。昭和三十年頃までは毎朝佛さまに日花を供養した檀信徒の方々もありましたが、寺院では大変です。

地域的に生花が容易に入手出来る寺もあれば、降ろした「花がら」の処理に困る寺もあるようです。

私の寺では、

「これは、お寺へ供える花ですから売れません。」などと、お寺へ届ける為に毎年施肥をする人、毎年芍薬を育成して下さる人、多くの方の協力によってお花を

戴きます。一回に五十本から六十本の花ですから大変です。

しかし、それが佛さまのことだからと当然のように供養して下さるので誠に「有難い」の一言です。

その花を、お供えする度に、普段なかなかやる気の起こらない本堂の掃除が出来る私も、歓びが湧いてきます。

佛に供える花だから、佛の方へ向けて供えるかと言えば、その逆で私どもへ向けて供えます。

これを「降下相」と申して、私どもは知ってか知らずか常に佛さまの慈しみを頂いているのです。それを花の形で向きも私どもへ向

けて教えて下さっているのです。

同じ花でも四華花と言って亡者の枕辺に供える白い造花があります。その起源は、約二七〇年前お釈迦さまは沙羅双樹の下で涅槃に到られました。その時、沙羅双樹の葉が萎んで葉の裏の白い部分が現れ、その教えが今日に到って四華花と名付けられたのです。

このように考えると花一本にも生命があり、佛に供えた一本一本の花の命、花を通して私どもを導いて下さる佛のお心を大切に戴きましょう。

布教講習所所長  
慈光院住職

鈴木 晴道





ゴータマに乳粥を差し出すスジャーター

文・釈尊法話会 絵・豆田 織奈

# お釈迦さまのご生涯 6

## 苦行（後編）



ゴータマ（お釈迦さま）は、六年の間、苦しい修行を続けました。その結果、体はガリガリにやせ細り、目は落ちくぼみ、立ちあがって歩くこともできなくなりました。

「ああ、こんな苦しい修行を繰り返し、身を痛めつけるだけで私は覺りを開けるのだろうか。心安らかにになれるのだろうか」と毎日考えるようになったのです。

そしてある日のことです。仲間が修行に打ち込んでいる時に、ゴータマは彼等から離れ、一人川岸にやってきて、沐浴を始めまし

た。六年間痛めつけた体には数え切れない程の傷があり、水で傷口が痛みます。ゆつくりと多くの傷を癒すように体を洗いました。

すると川岸に一人の少女がやってきました。スジャーターという名の少女は、やせ衰えたゴータマの姿を見て、そつと乳粥を差しだしました。スジャーターの優しさに触れたゴータマは乳粥を口に含み、「おいしい・・・おいしい・・・生き返るようだ」と喜びました。

しかし、乳粥を食べるゴータマを見た五人の修行仲間は「ゴータマは修行をやめやがった。あんなものを口にして・・・」と暴言を吐き、苦行林の奥深くに帰って行きました。

乳粥で身と心が癒されたゴータマは、一人静かにアシュバッタの木の下に座りはじめました。

# 賢問子行状記 ③

小島英裕

第三話

「賢問子、唐に渡る」  
(前編)

賢問子が一刀三礼して造った阿弥陀如来像は、地獄の罪人を救っていただけで近所はもとより遠方からも参詣があり、賢問子と母は喜んでいます。

「人々の信仰が深まってきたというのだ。この技術を得ることができたのは父のお陰だ。日本の方とはこれからも生涯を通して縁を結ぶことができる。しかし唐（中国）へ渡り阿弥陀佛像を造り、唐の人々にも縁を結んで欲しい」と賢問子

は大願を起しました。

「母上、父の技術を引き継ぎ仏師になりましたが、さらに唐に渡り父の追善供養のために仏さまを造り善行を積みたいと思います。一年以内には必ず帰ります。手紙を書きます。出来るだけ早く帰りますから、どうか願いを聞いてください」

母は驚いた様子で「夫に死に別れ、十九歳になるまであなたを育て、器量、人柄も良く、これから人生が充実する頃なのに。荒波の遠い海を渡り唐に行くとは。私も年を取った」と涙しました。

賢問子は胸がふさがりましたが何度も母に頼みます。

「十一歳の時は出家を諦めました。父の遺言を無にすることはできません。長くは滞在しません。一年以内に帰ります。どうか許してください」

「あなたの力では唐には渡れないでしょう」と母は泣きながら問い掛けます。

「もうすぐ遣唐使船の港です。勅使右大弁・橘重量さまや他にもお公家さまが御同船されます。私は天皇さまにお供の願いを出しました。明後日の舟出なので、明日より奉行所に参ります」と賢問子が答えると、母は仕方なく「それならば事故のないように一刻も早く帰って来ておくれ。あなたは春日明神さまより授かった子ども。この神様より授かった鑿一丁。父の大切な珍しい宝。これを父と思ひ大事にしておくれ」と錦の袋に入った鑿を手渡しました。

賢問子は、大切に受けと

り「父の優れた細工はこの鑿のお陰。唐に渡りこの鑿一丁で名を広めてみせるぞ」と誓いました。

「長い海を渡ることは人の力では叶いません。朝夕、春日の社を拝み神様の力を信じなさい。私が生きている間に帰って来るのだよ」と母は賢問子に別れを告げました。  
(つづく)



遣唐使船（『鑑真和上東征絵伝』唐招提寺蔵）



インド **ト** **タ** **バ** **タ** 夫婦道中記 27

東龍寺 住職 岩瀬 賢良

## とんでもない失敗

高温多湿の劣悪な条件が揃ったジャングルの中で、石窟寺院がほぼ完全な状態で目の見ることが出来たのは、職人と僧侶、そして彼らを支えた民衆のこの上もない信仰の篤さと体力以外、考えられないことだと僕は思う。

入り口から第一窟、第二窟・・・、とほぼ順番に並んでいて、第一窟寺院の中は本堂入り口の左に蓮華手菩薩、右には金剛手菩薩が描かれ、奈良の法隆寺金堂内陣の菩薩像の元になっている。特に有名な壁画である。

八九年に訪れた時もたくさんカメラに収めたのだが、今回はデジタルカメラで写そうと思った。ストロボ撮影は禁止されているので、明るい外でストロボを使わない設定にし、電池を無駄遣いしたくないために、一旦スイッチを切って中に入り再び被写体の

前に来てからスイッチを入れたのである。見物客が去ったのを見計らい、蓮華手菩薩の全体像をファインダーに入れ、シャッターを押した。

その瞬間、思いもよらずストロボが光ったのである！少し離れた場所で見物客に説明をしていたガイドが、間髪を入れず「出て行け！」と、大声を上げた。僕もすかさず「ごめんなさい！」と大きな声で英語で答え、利子まで連られて「ごめんなさい！」と反応し、そそくさと第一窟を飛び出したのである。

カジュラホーで寺院の庭を撮影している途中、電池が切れてしまい、ホテルに電池を取りに戻った経緯があり、電池の寿命を心配してスイッチを切ってしまったのが、間違いの元だった。設定をしても一度スイッチを切ると、元の設定に戻ることが分かっていた。なかつた自分の責任である。もつと使いこなしておくべき

だったと、ただただ反省するばかりだった。

しばらく外でデジカメの説明を見ながらいじり回した後、気を取り直し僕たちは隣の窟院に移った。有名な壁画や彫刻のある窟院の薄暗い所には、撮影する時のためにライトアップしてくれる係員がいて、チップを払うと電球で照らしてくれるので、数カ所はそれに頼ることにしてシャッターを押した。所詮あまり明るくない電球の光だし、三脚は使用禁止なので、写す瞬間は息を止めて手ブレを起こさないようにしなければならなかった。



— 蓮華手菩薩 —  
(アジャンタ 石窟寺院群 第1窟)



# 節分会

新 京 極 誓 願 寺

歌舞の菩薩ゆかりの

平成二十四年二月三日(金)

大般若転読会

午前十時～正午十二時 午後三時～午後四時  
※芸道上達・商売繁盛・恋愛成就など仏様に祈願します。

踊りの奉納

午後一時三十分～

出演 桜 富寿佐 佐くら会 (桜 富寿佐社中)

豆まき

午後二時～

扇塚法要

※古くなった扇の供養をいたします。

総本山誓願寺だより

おもな行事予定

二月

十五日(日)

六阿弥陀功德日

二十四日(火)

法然上人追慕念仏行脚

三月

三日(金)

節分会

八日(水)

六阿弥陀功德日

十五日(水)

涅槃会

三月

十四日(水)

善導忌六阿弥陀功德日

十七日(土)～二十二日(金)

春彼岸

クイズコーナー

【問題】

沐浴もくよくされているお釈迦さまに乳粥ちちがゆを差し出した少女は誰でしょう？その名前をカタカナ六文字

でお答え下さい。

〇 〇 〇 〇 〇 〇

官製はがきに、答えと郵便番号、住所、氏名、菩提寺(だんな寺)、感想や質問を必ず書いて送ってください。今回は管長親下御染筆の色紙を一名、西福寺さまより西福寺特製天女の散華を五名、本山謹製線香を五名の方に、合計十一名の方に抽選にて差し上げます。ご応募お待ちしております。

【宛先】〒四四四一三五二三

岡崎市藤川町字中町南十五番地

稱名寺内 ちかい編集係

答え 〇〇〇〇〇〇  
郵便番号  
住所  
氏名  
菩提寺(だんな寺)  
感想・質問等

【締切】一月三十日

(消印有効)

ちかい 第133号

発行日 平成二十四年一月一日  
発行所 浄土宗西山深草派  
総本山誓願寺

京都市中京区新京極桜之町四五三番地  
電話 (〇七五) 二二二一〇九五八  
FAX (〇七五) 二二二一〇二一九

E-mail info@fukakusa.or.jp  
URL http://www.fukakusa.or.jp



何でも

## お寺探偵団

さいふくじ  
西福寺

Vol.31



## profile

三浦学道師

(西福寺 第28世)  
1965年生まれ  
(46歳)

師は結婚を機に一念発起し、仏門に入り今年晋山されました。

今回は、西尾市(旧：幡豆郡)吉良町の「北星山 宝幢院 西福寺」を訪ねました。

## Q1

お寺の由来を  
教えてください。

西福寺は、建長6年(1254)最明寺入道北条時頼公が諸国巡遊の折に創建されました。天台宗の大伽藍でしたが、兵火によって焼失しました。焼跡に道金沙弥という僧が草庵

## Q2

お寺の宝物は  
なんですか？

平成元年に当寺の屋根裏の書庫から「輪圓草」という書物が発見されました。これは至徳3年(1386)に講義された当麻曼陀羅の注釈書で、その中に「善人なお生まるといふや悪人をや」という言葉が記録されています。この書物によって、わが西山深草派にも悪人正機説

を結び、そこへ熱田正覚寺より章久養玉上人が巡錫せられ宿泊されました。

ある夜、北斗星が境内の松の上に降りるといふ夢を見て、これこそ仏法有縁の霊地であると悟り、文安元年(1444)お堂を建立しました。これより浄土宗に改め、北斗星の因縁を以て「北星山」、念仏を称え、西方の福業を修する為「西福寺」と名付けられたといひます。

## Q3

「座右の銘」は  
ありますか？

が伝わっていたことがわかりました。つまり、教科書にも載っている「悪人正機説」は、実は法然上人がお説きになつていたということがはつきりしたのです。この発見は、当時NHKのTV番組『歴史発見』でも紹介され話題となりました。

また、明治の初め、神仏分離に際して岡崎の伊賀八幡宮から移築された鐘楼堂(県指定文化財)、鎌倉時代の観音菩薩立像、江戸時代の講義録『指定記先聞録』40巻などがあります。

## Q4

「ちわい」の読者に  
何か頂けませんか？

「和顔愛語」です。私は仏門に入り20年になります。この度、晋山(住職に就任)させて頂きました。いつも和やかな笑顔と思いやりのある話し方で、皆さんに親しみやすいお寺にしたいと思っています。

## Q4

西福寺特製、天女の散華を5名さまに差し上げます。

## 【交通】

名鉄西尾線「吉良吉田」駅下車  
北へ 徒歩15分

## 【主な行事】

春彼岸会 春分の日  
涅槃会 4月15日  
盆施餓鬼 8月 9日  
秋彼岸会 秋分の日  
西山忌 11月下旬

## 【お問い合わせ】

西福寺  
〒444-0516  
愛知県西尾市吉良町吉田桐杭27  
TEL 0563-32-0859

鐘楼堂 (県指定文化財)



本堂



観音菩薩立像